

平成6年度丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書

丸亀市教育委員会
平成7年3月

はじめに

丸亀市内遺跡発掘調査事業は文化庁・香川県の国庫補助事業として、市内の遺跡保護のため、遺跡地図の作成に努めています。当市においても、総合運動公園建設など大規模な開発工事の計画があり、遺跡の特徴、範囲などを確認することは重要な責務であるといえます。

丸亀市金倉町中の池地区で昭和51年度と56年度に発掘調査の際、弥生時代前期の3重とみられる周濠をもつ遺跡が確認されました。この遺跡は、平池の北側に所在し「中の池遺跡」と呼ばれ、弥生時代前期後半～弥生時代前期末頃の土器や遺物が大量に出土しました。この「中の池遺跡」は、弥生時代における県内の重要遺跡の一つとされています。

このような状態から、平池周辺には中の池遺跡に関連する重要な遺跡が展開している可能性が高く、本年度の丸亀市内遺跡発掘調査は丸亀市金倉町の平池西側で実施し、遺跡確認を行いました。調査範囲は東西約40m、南北約400mにわたる範囲を対象とし、調査区の中央以北で弥生前期の溝などの遺構を検出しています。また、遺物についても石器や中の池遺跡と同様式の土器片が出土しており、弥生時代前期の遺跡が所在することが判明しました。

これら発掘調査による成果は、中の池遺跡を含む古代の歴史を解明する手掛かりとなるため、今後も調査を継続し、貴重な歴史遺産の保護に努めたい所存であります。

平成7年3月

丸亀市教育委員会
教育長 笹川 高美



例　　言

1. 本書は、丸亀市教育委員会が平成6年度国庫補助事業として実施した、丸亀市内遺跡発掘調査の概要報告書である。
2. 今回の発掘調査は、丸亀市金倉町の平池西側で実施した。
3. 発掘調査及び本書の執筆・編集は、丸亀市教育委員会生涯学習部文化課主事東信男が担当した。
4. 挿図の一部に国土地理院地形地図 丸亀(1/25,000)を使用した。図面の包囲はすべて、磁針方位で示した。また実測図の縮尺は、すべてスケールで表示した。
5. 遺構の実測は、四国学院大学の学生の協力を得た。
6. 出土遺物の実測及びトレースは細川倫子が担当した。
7. 遺物の写真は東信男が担当した。
8. 出土遺物及び図面は、丸亀市立資料館で保管している。
9. 本書の執筆にあたっては、片桐孝浩氏、笹川龍一氏、山本英之氏、山元敏裕氏、川端聰氏の助言・協力を得たので記して謝意を表する。

目　　次

第Ⅰ章 調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 平池西遺跡	2
(1) 1~3区 ①土層 ②遺構 ③遺物 ④まとめ	2
(2) 4・5区 ①土層 ②遺構 ③遺物 ④まとめ	4
(3) 6区 ①土層 ②遺構 ③遺物 ④まとめ	4~8
(4) 7区 ①土層 ②遺構 ③遺物 ④まとめ	8
(5) 8区 ①土層 ②遺構 ③遺物 ④まとめ	8
(6) 9~11区 ①土層 ②遺構 ③遺物 ④まとめ	9
第Ⅲ章 まとめ	10
写真掲載遺物について	11

挿図目次

第1図	周辺の遺跡地図	1
第2図	調査トレンチ設定状況	3
第3図	4・5区平面図	5
第4図	ピット・土こう寸法表	6
第5図	6・7・8区平面図	7
第6図	10区・11区平面図	10
第7図	土器観察表	11
第8図	出土遺物実測図（4区ピット19出土①壺・6区東溝出土②④甕・③壺・⑥～⑧⑬壺・⑤6区包含層出土壺・11区西トレンチ出土⑩～⑫壺）	12
第9図	出土遺物実測図（11区西トレンチ土こう出土⑪～⑯壺）	13

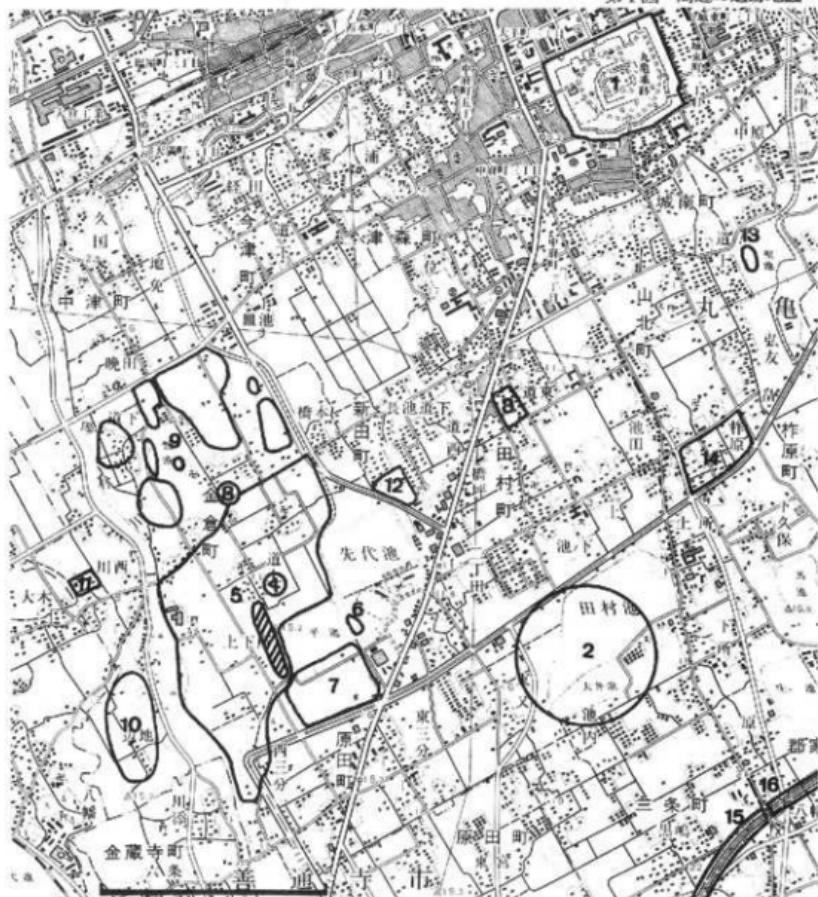
図版目次

写真1	1～3区調査前状況	14
写真2	4・5区調査前状況	14
写真3	6～8区調査前状況	14
写真4	9～11区調査前状況	14
写真5	1区重機掘削状況	14
写真6	土採りによる攪乱をうけた土層（1区北側断面）	14
写真7	5区土こう及びピット検出状況	15
写真8	作業状況	15
写真9	6区検出溝の土層断面	15
写真10	6区礫層検出状況	15
写真11	6区遺構検出状況	15
写真12	8区遺構検出状況	15
写真13	8区土層	15
写真14	出土遺物写真（4区ピット19出土①壺・6区東溝出土②③壺・④甕・⑥～⑧⑬壺・⑤6区包含層出土壺・11区西トレンチ土こう出土⑨～⑯壺・6区河川底出土⑭石鎌・6区東溝出土⑮左石包丁・右スクレイパー・5区ピット21出土⑯すり石・7区包含層⑯石包丁・6区東溝出土⑰敲き石）	16

第Ⅰ章 調査に至る経緯

平成4年度から国庫補助事業により、丸亀市内に所在する遺跡の確認調査を実施している。本年度の丸亀市内遺跡発掘調査事業は、弥生時代前期の中の池遺跡のある丸亀市金倉町に総合運動公園建設計画があることから、遺跡の範囲を明確にするため平池の西側で試掘調査を実施した。

第1図 周辺の遺跡地図



1. 丸亀城跡 6. 平池東遺跡 11. 金倉城跡 16. 郡家一里屋遺跡
2. 田村池遺跡 7. 平池南遺跡 12. 遺物散布地
3. 田村廃寺跡 8. 道下遺跡 13. 遺物散布地
4. 中の池遺跡 9. 遺物散布地 14. 遺物散布地
5. 遺物散布地 10. 遺物散布地 15. 郡家原遺跡
(中の池遺跡)

調査地は丸亀市金倉町 780-1、783、789、1031、1032、1034-1番地を対象とし、文化財保護法（以下「保護法」という。）98条の2の発掘届出書を県文化行政課に提出し、平成6年2月1日～2月16日まで、1区～11区のトレンチ調査をした。

第Ⅱ章 平池西遺跡

調査の概要

平成7年2月1日から平成7年2月16日まで、調査対象地区内に1～11区、計約524m²のトレンチ調査及び確認調査をした。最南部のトレンチを1区とし、最北部のトレンチを11区とした。各調査区とも耕作土直下で遺構面となることを確認しており、調査区東端で旧河道を検出している。

2. 各調査区の成果について

(1) 1～3区

① 土層

このあたりの土地は良質の粘土を産出することから、早くから瓦の材料として土採りがなされており、遺構が消失している。

1区は東西27m、南北1.5mのトレンチ調査、2区は東西15.2m、南北1.6mのトレンチ調査、3区は東西25m、南北1.1mのトレンチ調査をした。

基本土層については1～3区の堆積土層はほぼ同じである。1区で部分的に土採りされていないところがあり、その層位は第1層耕作土、第2層黒褐色粘質土、第3層灰褐色粘質土、第4層黄褐色粘質土、第5層礫となる。第5層の礫層上に旧河道となる。2区も第1区と同じ層位であるが、第2層が土採りにより消失している。東端で4層上部に流路がある。3区は1区と同様の層位である。

② 遺構

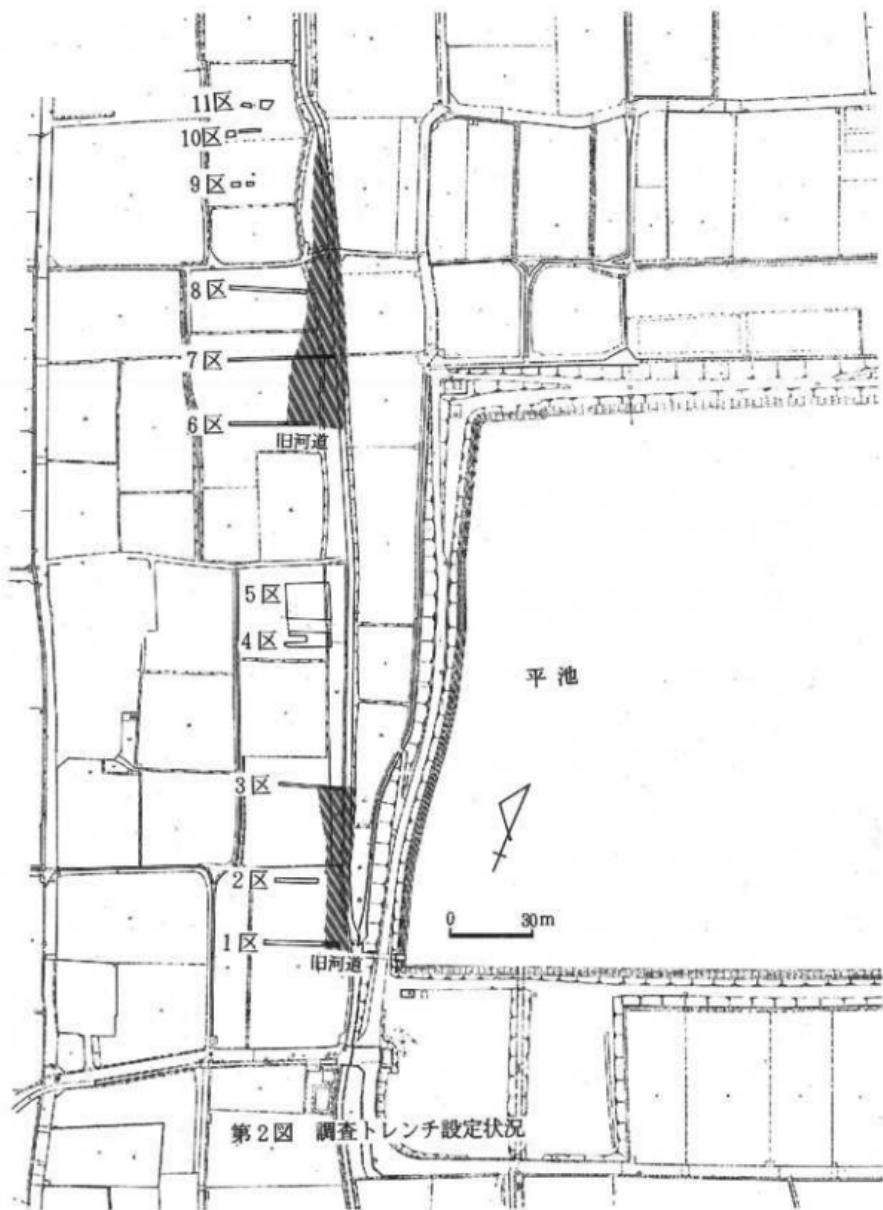
1～3区は土採りにより遺構面が消失している状況にある。1区と3区で旧河道を検出している。1区は調査区東端の地表下1.4mで検出しており、3区は調査区東側の地表下1.5mで旧河道を確認している。

③ 遺物

遺物の出土はなく、旧河道からは流木が大量に出土している。

④ まとめ

1～3区については、土採りにより遺構が消失している。旧河道が1区と3区の東端に流れている。旧河道には流木が大量に堆積している。



(2) 4・5区

①土層

4区は東西16.6m、南北5.2mのトレンチ調査、5区は東西15.7m、南北13.2mのトレンチ調査を実施した。

基本土層については、4・5区とも同じ層位で第1層耕作土、第2層黒灰色粘質土、第3層灰色粘質土、第4層黄褐色シルト層、第5層灰色シルト層（流路）となっている。

②遺構

4区は、地表下30cm（耕作土直下）でピットを14基検出している。そのうち等間隔で弧状に並ぶピットもある。5区は、地表下30cm（耕作土直下）で、土こうを6基、ピットを12基検出している。そのうち1基のピットから土器片とサヌカイト片を検出した。4区と5区の間についてもピットの確認調査をし、4基検出している。

ピットの大きさ・深さ及び遺物の出土有無については4区と5区合わせた第4図の表に記載する。

③遺物

遺物については表に示すとおり、ピット19から土器片が出土した。底部はなで成形している。胎土から弥生前期のものである。ピット13からは土器片が出土した。5区のピット21からすり石が出土している。

④まとめ

耕作土直下で遺構面となることから、当時の遺構面は消失している可能性は高く、土こうやピットのみが残ったものと思われる。

(3) 6区は東西27m、南北1mのトレンチ調査を実施した。

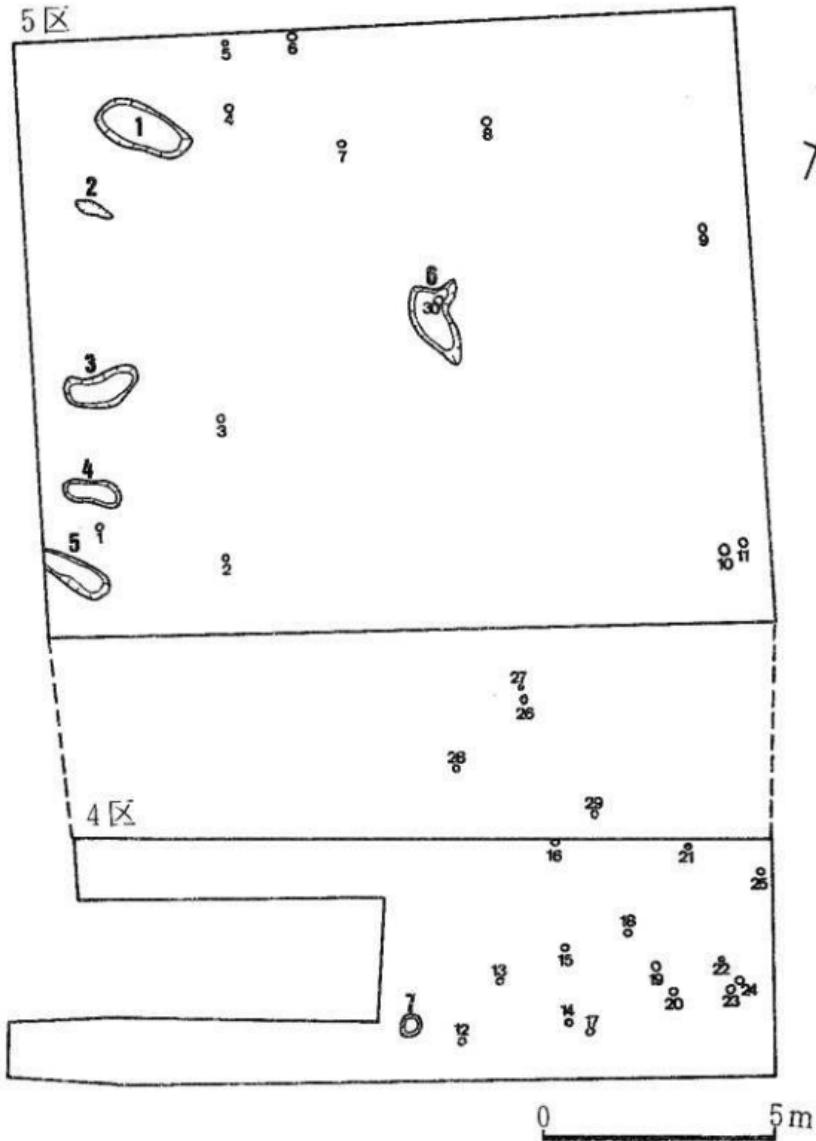
①土層

基本土層は第1層耕作土、第2層黒灰色粘質土、第3層黄褐色粘質土、第4層黄褐色細砂層、第5層黄茶色粘質土、調査区の中央部（西から16m地点）から東側で旧河道となる。

②遺構

西端から22m地点、地表下50cmで溝跡を検出した。この溝は河川の堆積後できたものである。旧河道は調査区西端から14.5mのところで肩となり、地表下1.2mの地点から東へ向かって川底となる。この旧河道の堆積層中に溝を検出している。

5区



第3図 4・5区平面図

③遺物

出土遺物は、調査区東端の地表下 1.8m、旧河道の底部で石錐を検出した。東溝の中から弥生前期土器底部 3 点、弥生前期土器口縁 2 点、土器片 20 数点（う

ピット 耕作土直下で検出											
No	大きさ	粒度	埋 土	備 考	No	大きさ	粒度	埋 土	備 考		
1	15	4	灰褐色粘質土		16	18	6	灰褐色粘質土			
2	15	11	灰褐色粘質土		17	20	12	灰褐色粘質土			
3	19	9	灰褐色粘質土		18	27	12	灰褐色粘質土			
4	19	11	灰褐色粘質土		19	14 ～ 28	9	灰褐色粘質土	土器片		
5	14	9	灰褐色粘質土		20	12	5	灰褐色粘質土			
6	20	16	灰褐色粘質土		21	18	10	灰褐色粘質土	石		
7	16	8	灰褐色粘質土		22	12	7	灰褐色粘質土			
8	18	12	灰褐色粘質土		23	25	8	灰褐色粘質土			
9	20 ～ 26	6	灰褐色粘質土		24	25	10	灰褐色粘質土			
10	24	24	灰褐色粘質土	土器片・チカイト片	25	20	11	灰褐色粘質土			
11	20	10	灰褐色粘質土		26	20	10	灰褐色粘質土	方形ピット		
12	23	15	灰褐色粘質土		27	10	10	灰褐色粘質土			
13	22	14	灰褐色粘質土	石	28	20	25	灰白粘質土	近世以降		
14	15	6	灰褐色粘質土	チカイト片	29	20	18	灰褐色粘質土			
15	16	8	灰褐色粘質土		30	26	20	灰褐色粘質土			
土こう寸法表 耕作土直下で検出 埋土（灰褐色粘質土）											
No	長径	短径	深さ	No	長径	短径	深さ	No	長径	短径	深さ
1	210	90	46	4	130	50	12	7	50	42	9
2	90	30	3	5	170	60	42				
3	160	70	30	6	200	110	10				

第 4 図 ピット・土こう寸法表

(単位: cm)

8区



7区



6区



第5図 6・7・8区平面図

ち一点突帯文含む）と石器（石包丁、スクレイパー、剝離片）が出土している。

④まとめ

検出した遺構は東端の溝と旧河道である。溝は弥生前期の土器片及び石器片を多量に含む。旧河道からは石鎚が出土しており、他の遺物の出土する可能性は高い。

(4) 7区は東西37m、南北 1.1mの遺構確認調査を実施した。

①土層

第1層耕作土、第2層茶褐色粘質土（マンガン含む）、第3層黄褐色粘質土、第4層疊層となる。西端から10m、地表下 1.4mで旧河道となる。溝状遺構を第2層茶褐色粘質土上で検出している。

②遺構

地表下40cm、西端から14m、17m、19.6m、20.3m、21.5m地点で溝状遺構を検出した。西端から10m、地表下 1.4mで旧河道となる。

③遺物

出土遺物は土器片と石器である。弥生前期の壺の底部が2個、土器片が数点、サヌカイトの破片が出土した。

④まとめ

5条の溝を検出しており、いずれも弥生前期の土器片を検出している。東側の溝は6区と対応する可能生が高い。

(5) 8区は東西29m、南北 1.2mのトレンチ調査を実施した。

①土層

基本土層は、第1層耕作土、第2層灰白粘質土、第3層黒褐色粘質土、第4層茶褐色粘質土、第5層黄褐色粘質土となる。地表下 1mで遺構面となる。遺物包含層が全体に地表下80cm～1mの間に広がる。

②遺構

調査区の西端から約 1.5mのところで幅40cm、長さ80cm以上の近世以降の土こうを確認した。また、調査トレンチの西端から約25mのところで東側で弥生前期の土こうを確認している。

③遺物

出土遺物は土器片、石器である。調査トレンチ東端の地表下30～50cmから弥生前期の土器底部1点、土器片3点が出土した。調査トレンチ西端で地表下25～45cmから土器片7点が出土と石器片が出土した。土器片は弥生時代前期のものであ

る。

④まとめ

8区にいたっては、遺物包含層が全体に広がり東端と西端で約地表下1mのところに遺構面を確認している。全体に保存状態がよいものと思われる。

(6) 9区～11区

9～11区の基本土層は同じであるので、ここではまとめて記述する。9区は東トレンチと西トレンチで遺構の確認をした。東トレンチは東西2.2m、南北1.6mである。西トレンチは東西3.2m、南北1.6mである。10区は東トレンチと西トレンチで遺構の確認をした。東トレンチは東西8m、南北80cmである。西トレンチは東西2.7m、南北1.8mである。11区は東トレンチと西トレンチで遺構の確認をした。東トレンチは東西4.6m、南北2.5mである、西側トレンチは東西3.5m、南北1.3mである。

①土層

基本土層は第1層耕作土、第2層黒灰色粘質土、第3層黄灰色粘質土、第4層茶褐色粘質土となる。

9区ではみかん畑により遺構面は攪乱されている。10区では第2層の遺物包含層が地表下12cmのところで、西トレンチの全域と東トレンチの西端から3.1mの地点まで広がっている。11区では西トレンチの地表下20cmで弥生前期の土器を含む土こうを検出している。

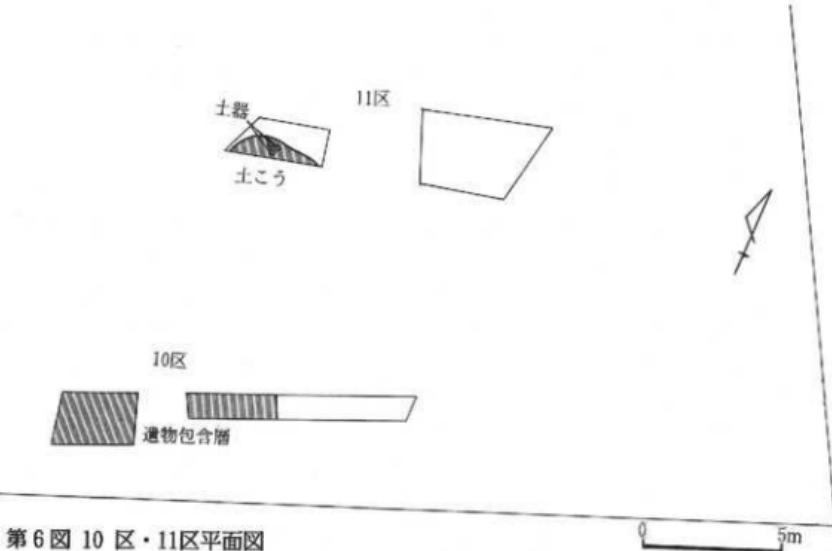
③遺物

9区からは土器片5点、サヌカイト片2点、近世以降のすり鉢片が1点出土している。遺物を包含する層が攪乱にあっており、違った年代の遺物が混在している状態である。

11区からは土器片が出土している。弥生前期後半～末の中の池様式の土器が出土している。

④まとめ

10区と11区は弥生時代前期の土こうを検出している。また、中の池遺跡にも近い位置にあり遺構の広がる可能性は高い。9区では、みかん畑により遺構面は攪乱にあって、消失している状態にある。



第6図 10区・11区平面図

第Ⅲ章 まとめ

今回の1区から11区のトレンチ調査の結果、南側の1～3区については、土採りにより、遺構面の消失が確認された。4～5区については、ピット及び土こう等の検出はあったが、遺物の出土は少量であった。全体的に6区から11区にかけて、遺物を多量に包含する溝及び土こうが検出されている。6区と7区では調査区の東側で遺物を多数包含する溝が検出され、8区ではトレンチ全域にわたり遺構の残りが良いと思われる。9区はみかん畑により、遺構は破壊をうけているが、10～11区にかけての地域は遺構の残りはよいものと思われる。

出土遺物は壺の口縁部や胎土から弥生前期末頃のものである。また土器片や石器片が多く出土しており、中の池遺跡も近くに所在することから、弥生時代前期の遺跡が展開する可能性が高い。

写真掲載遺物について

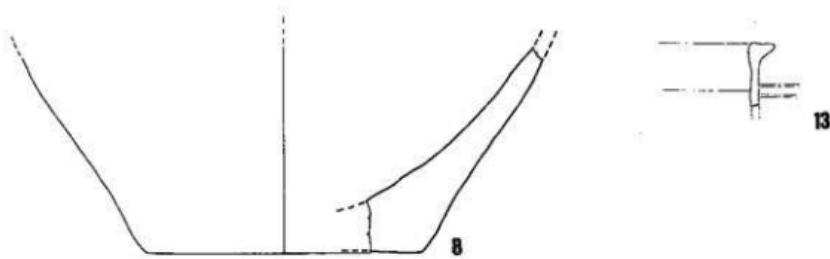
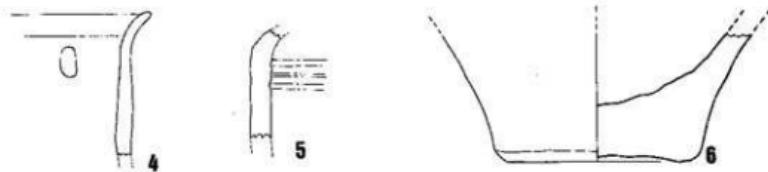
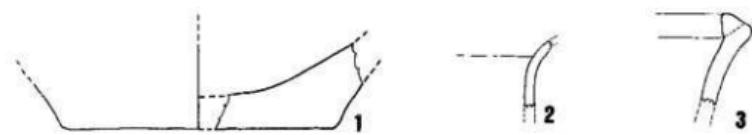
土器

番号	器種	法量(cm)			胎土	色調	備考
		口径	器高	底径			
①	壺底部	—	—	9.8	2~4mmの砂粒を含む	内外 灰茶色 茶褐色	4区ピット19出土
②	甕口縁部	—	—	—	1~2mmの砂粒を含む	内外 灰茶色 茶褐色	6区東溝出土 如意状口縁
③	壺口縁部	—	—	—	1~2mmの砂粒を含む	内外 茶褐色 茶褐色	6区包含層出土
④	甕口縁部	—	—	—	1~3mmの砂粒を含む	内外 茶褐色 外淡赤褐色	6区東溝出土 輪形、翫形
⑤	甕頸部	—	—	—	1~2mmの砂粒を含む	内外 茶褐色 灰茶色	6区包含層出土 3条沈線
⑥	壺底部	—	—	7.2	2~3mmの砂粒を含む	内外 茶褐色 茶褐色	6区東溝出土
⑦	壺底部	—	—	6.2	2~3mmの砂粒を含む	内外 茶褐色 茶褐色	6区東溝出土
⑧	壺底部	—	—	9.8	2~3mmの砂粒を含む	内外 灰茶色 茶褐色	6区東溝出土
⑨	壺底部	—	—	7.0	1~3mmの砂粒を含む	内外 茶褐色 茶褐色	11区西トレチ出土
⑩	壺底部	—	—	6.0	2~3mmの砂粒を含む	内外 灰褐色 茶褐色	11区西トレチ出土 指圧痕
⑪	壺頸部	—	—	—	1~3mmの砂粒を含む	内外 灰褐色 茶褐色	11区西トレチ出土 へり巻き、削り
⑫	壺	—	22.0	—	1~3mmの砂粒を含む	内外 灰褐色 茶褐色	11区西トレチ出土 へり巻き、破
⑬	壺	—	—	—	1~3mmの砂粒を含む	内外 黄茶色 灰褐色	6区東溝出土 口縁逆し字型 2条沈線

第7図 土器観察表

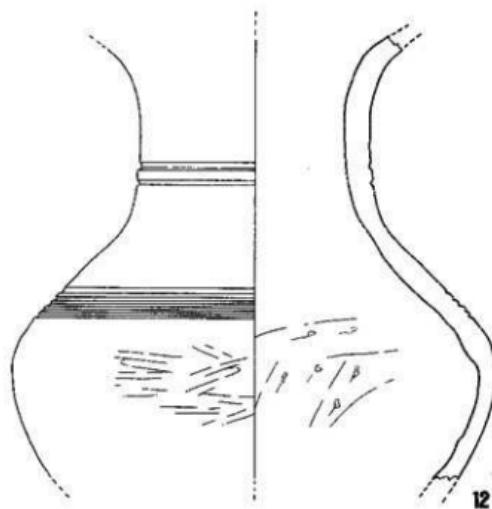
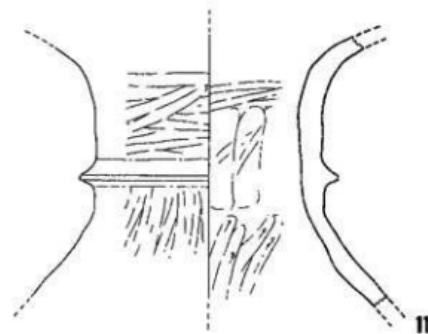
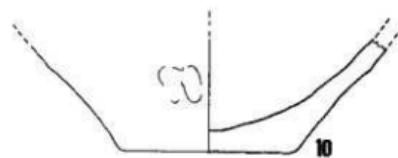
石器

⑭の石鎌は第6区の地表下1.9mの第6層灰色粘質土(東側河川底)から出土している。長さは1.4cm、幅1.4cmの凹基無茎式である。⑮右は石包丁で、左はスクレイパーである。第6区の地表下50cm~1mの黒褐色粘質土(溝)から出土した。石包丁は長さ6.2cm、幅4.1cm、厚さ0.6cmあり。スクレイパーは長さ5cm、幅4.1cm、厚さ0.6cmである。⑯のすり石は第4区ピット21の埋土(灰褐色粘質土)から出土している。長径6.1cm、短径5.9cm、厚さ3.4cmで球状をしている。⑰は7区包含層より出土している石包丁は、長さ10.4cm、幅4.8cm、厚さ2cmである。⑱は6区東溝から出土した敲き石と思われる。長さ12.2cm、幅7cm、厚さ1.9cmである。



第8図 出土遺物実測図

(4区ピット19出土①壺・6区東溝出土②④壺・③壺・⑥～⑧⑬壺・
⑤6区包含層出土壺・11区西トレンチ土こう出土⑨)



第9図 出土遺物実測図
(11区西トレンチ土こう出土⑩～⑫臺)



1



2



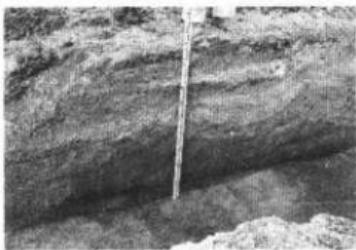
3



4



5



6



7



8



9



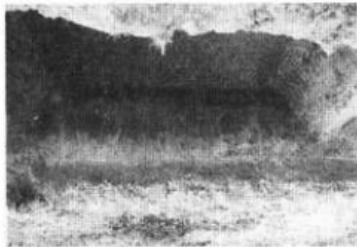
10



11



12



13

15

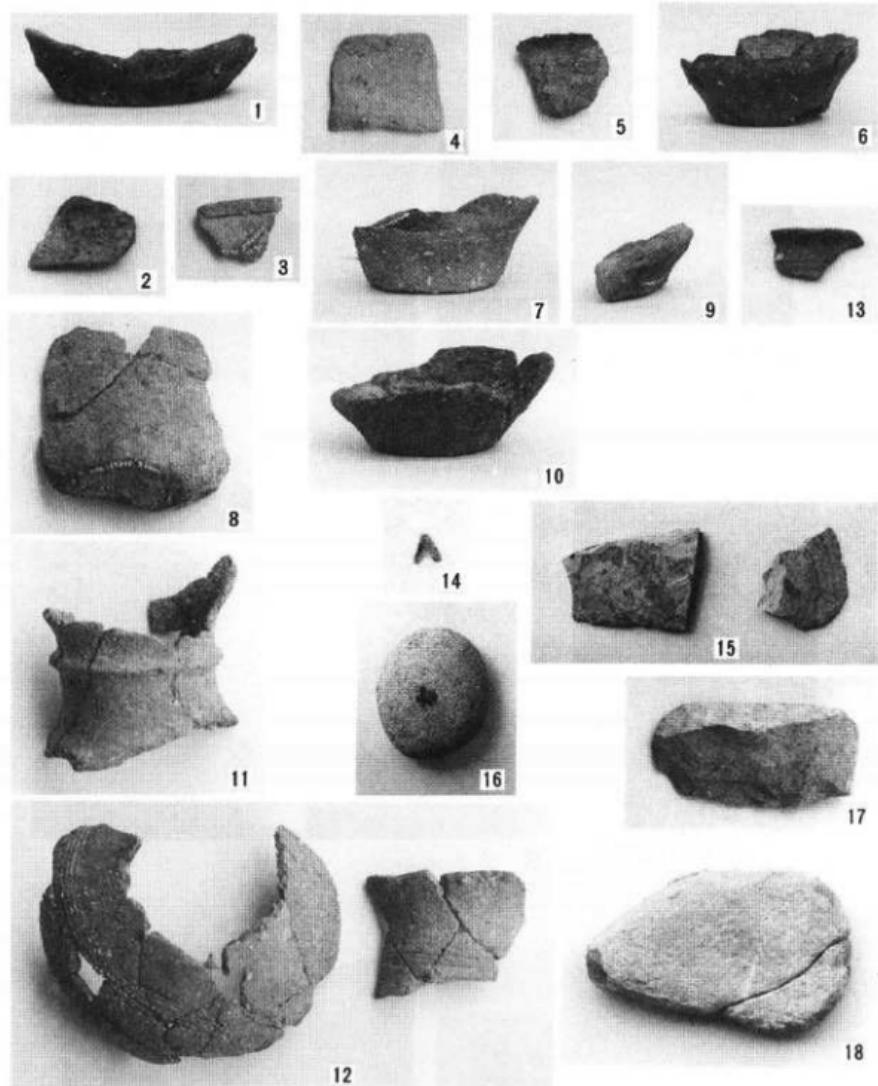


写真14 出土遺物写真

4区ピット19出土①壺・6区東溝出土②④甕・③壺・⑤6区包含層出土甕・
⑥～⑧⑬甕・⑤6区包含層出土壺・11区西トレンチ土こう出土⑨～⑫甕・6
区河川底出土⑭石鏃・6区東溝出土⑮左右包丁・右スクレイパー・5区ピッ
ト21出土⑯すり石・7区包含層⑰石包丁・6区東溝出土⑲敲き石

報告書抄録

ふりがな	へいりくねんどまるめしないいせきはくつちょうさかはうはうこくし							
書名	平成6年度丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書							
副書名								
卷次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	東信男							
編集機関	丸亀市教育委員会							
所在地	〒763 香川県丸亀市大手町二丁目3番1号							
発行年月日	西暦 1995年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 通路番号	北緯 °' "	東經 °' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
ひらけいし 平池西 （金倉竜 川幹線）	かがわん 香川県 丸亀市 かねくわ 金倉町	37202	34° 15' 36"	133° 47' 11"	19950201 ～ 19950216	524	遺跡確認 調査	
所収遺物	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
平池西 （金倉竜 川幹線）	集落	弥生時代 前期	柱穴 溝	弥生土器片 石器	近くもあが 3重の環濠 中で、中 が壇上 してい る。			

平成 6 年度
丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書

平成 7 年 3 月発行

編集 香川県丸亀市大手町二丁目三番一号
発行 丸亀市教育委員会

印 刷 四国工業写真